

第1回 加西市スマートシティ推進会議

日時 令和6年8月27日(火)14:00～

場所 加西市役所5階会議室(大)

加西市のスマートシティ推進概要

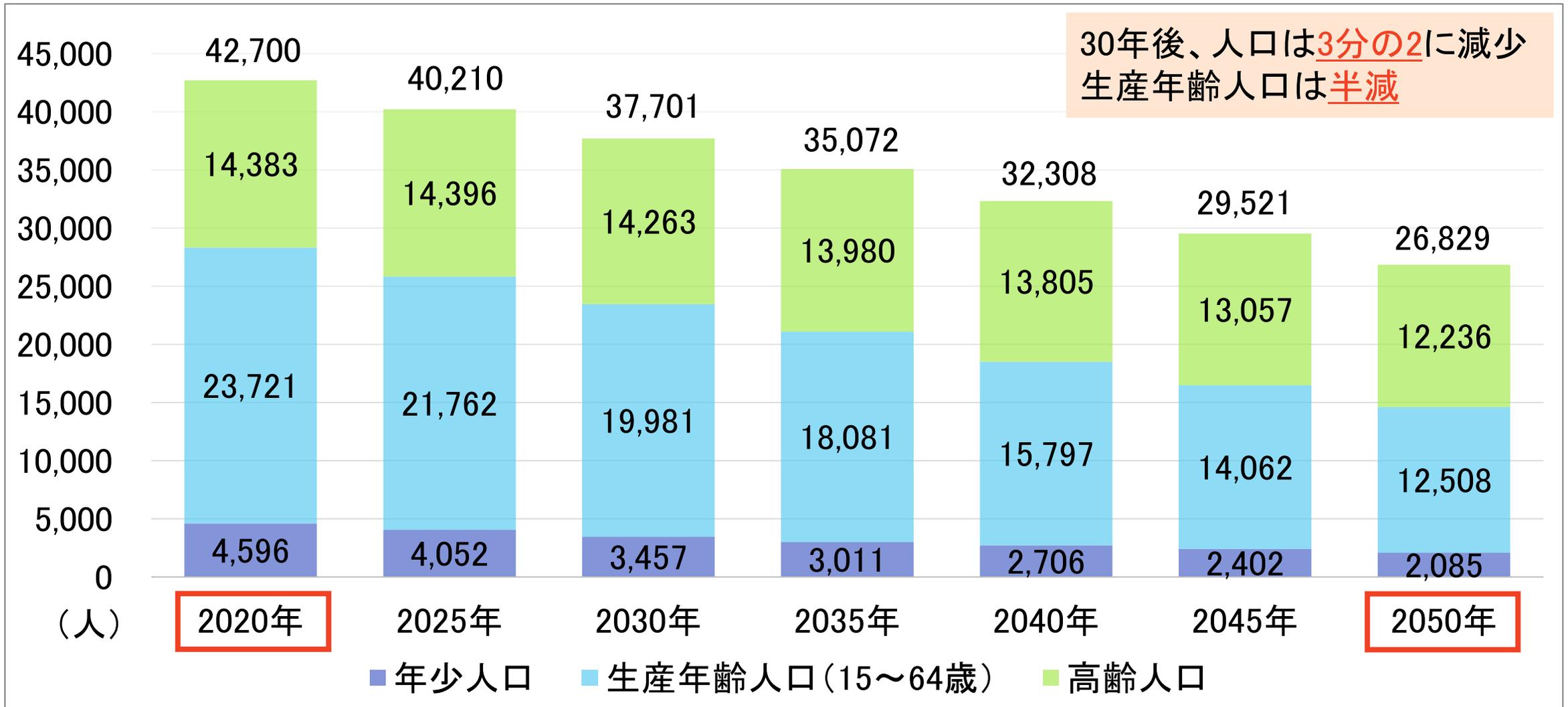
加西市DX推進計画に基づき、企業、団体及び市民と市との協働による「人が中心の持続可能な協創のまち」の実現を目指し、デジタル技術を活用し地域の課題解決とまちの活性化を図るスマートシティの取組を推進するため、加西市スマートシティ推進会議を設置する。

(加西市スマートシティ推進会議設置要綱第1条より抜粋)

加西市DX推進計画

(令和4年2月策定)

加西市の将来推計人口



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」

現状

子育て5つの無料化など、様々な人口増施策を実施



将来見込

- 人口減少の大きな流れには抗えず、まちの活力が低下
- 行政含め様々なサービス・事業の継続が困難になっていく

対策

- デジタル技術で課題を解決
- 住民の利便性向上、地域の活性化、行政の業務効率化を推進
- まち全体の変革と新たな価値を創出

基本理念：デジタルが創る新しい日常

3つの基本方針を定め計画を実施。

1 暮らしにつながる市民
サービスの利便性向上

スマートフォンを中心としたデジタル
市役所窓口

2 地域社会の次代を拓く
豊かな活力の創造

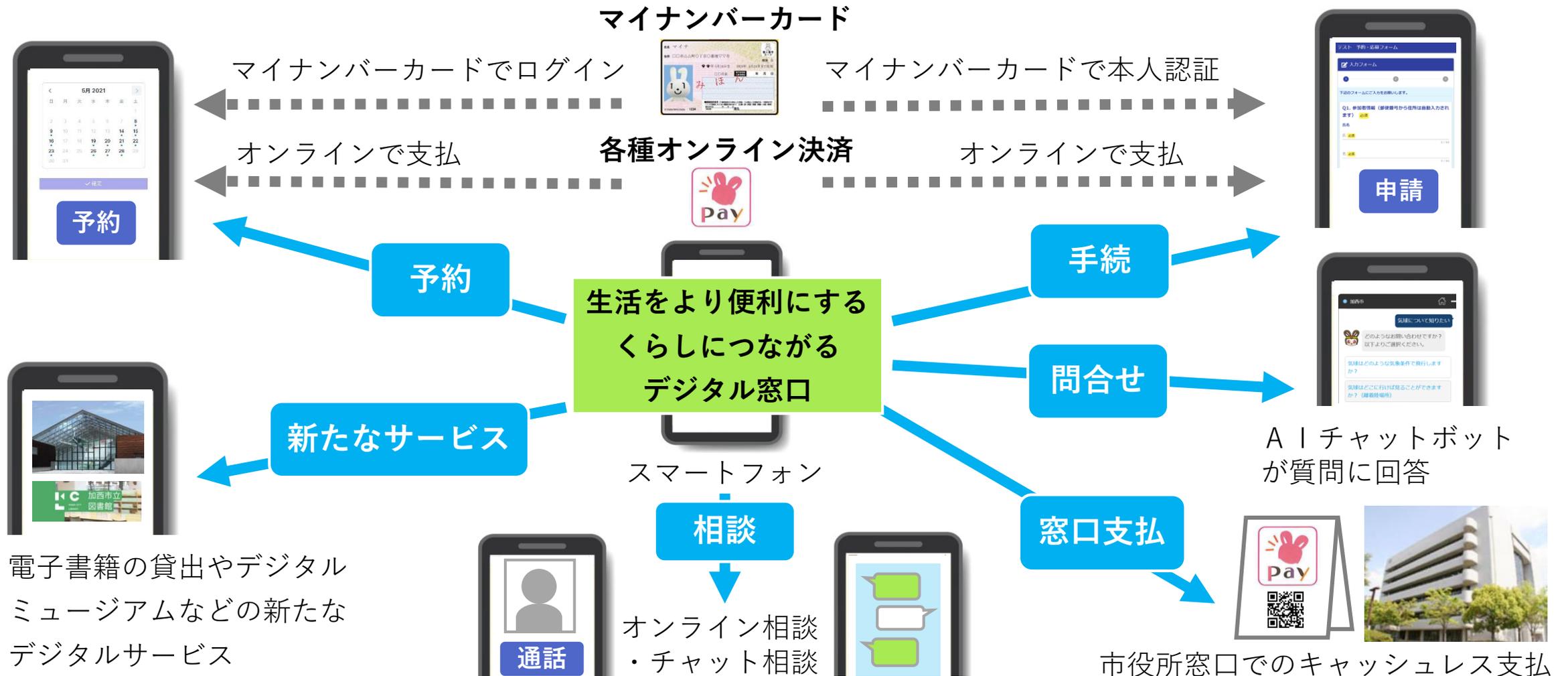
デジタル技術を活用したスマートシ
ティ型まちづくり

3 デジタル時代を支える
行政基盤の強化

ペーパーレスやAI活用などによる
行政事務の効率化

1 暮らしにつながる市民サービスの利便性向上

スマートフォンを中心としたデジタル市役所窓口のイメージ



2 地域社会の次代を拓く豊かな活力の創造

加西市が目指すスマートシティ型まちづくりのイメージ

各分野でのオープンデータ、ビッグデータの活用

地域社会のデジタル化
市民の主体的な参画による、心豊かな暮らしと活力のある持続可能なまちづくりの推進

情報弱者への支援と格差の解消

遠隔診断システムの導入推進など

安心で高度な医療

幼児期から生涯にわたる学びの環境づくり

人生100年時代を豊かに生きる

ゼロカーボンやエネルギー利活用に関するデジタル技術の活用

環境への負担低減

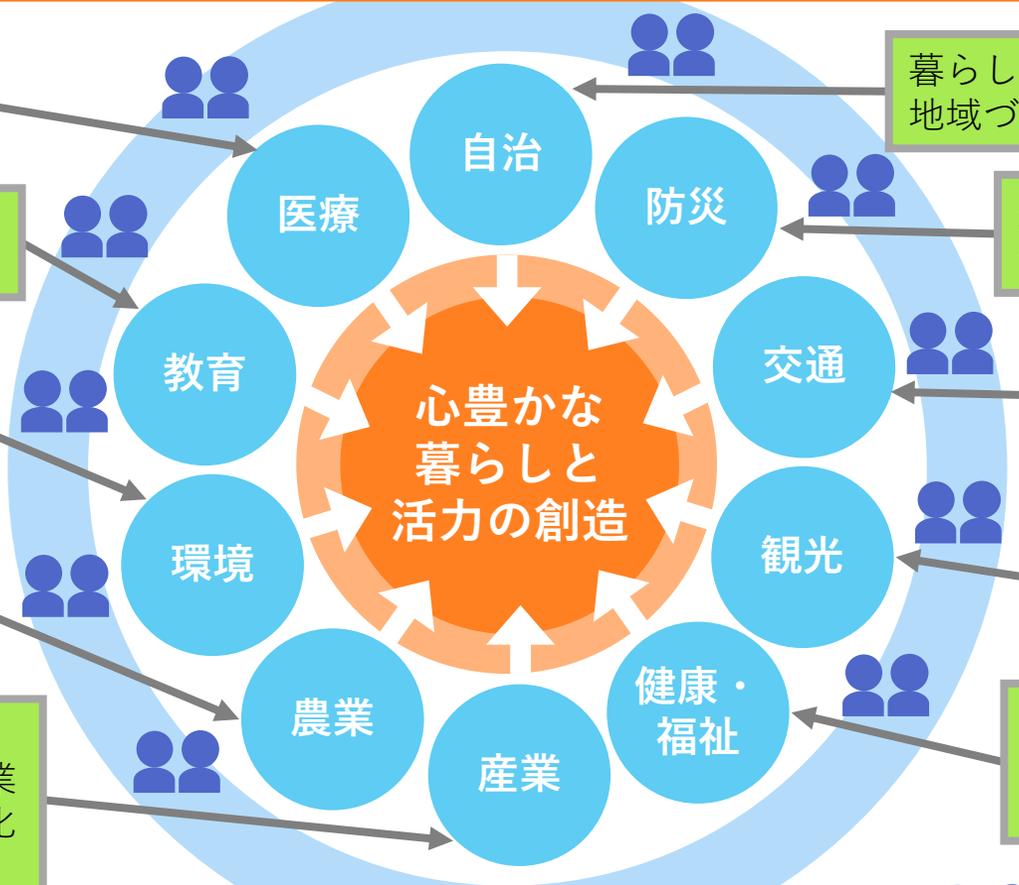
ドローンやセンシング技術を用いたスマート農業の推進

持続可能な農業

地域企業のICT、*IoT化による生産性の向上やデジタル地域通貨を用いた地域の活性化など

地域産業の活性化

デジタル時代を支える、未来を拓く人材の育成



暮らしやすい地域づくり

自治会・市民の連絡手段のデジタル化による利便性向上など

生命を守る

災害情報のパーソナル配信や災害時の情報共有・可視化の推進

移動手段をより便利に

バスロケーションやデマンド予約など地域交通の利便性の向上

交流人口の増加

AR（仮想現実）や行動データ分析などを活用した新たな観光事業の推進

健康寿命の延伸

スマートフォンやビッグデータを活用した健康管理や健康増進の支援など

* IoT…Internet of Things。モノに通信機能を持たせること。

3 デジタル時代を支える行政基盤の強化

ペーパーレスやAI活用などによる行政事務の効率化のイメージ

情報セキュリティ対策

個人情報等を安全に管理・運用

市民

スマートフォン
などで手続



加西市役所

市民と市役所がデジタルで繋がり完結する、安全で効率的な行政

ガバメント・クラウド

自治体情報システムの標準化

共通システム利用により
経費と人的コストを削減

国・県システム



業務の効率化・ペーパーレス化

- ・事務処理をデジタルで完結
- ・効率化により長時間労働を是正

市システム



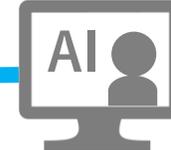
各業務



AI・RPAの利用促進

- ・定型業務を自動化
- ・職員誰もがツールを活用

自動処理



自宅・サテライト
オフィス等

テレワークの推進

- ・業務継続性の確保
- ・働きやすい環境



加西市スマートシティ推進会議

かさい「ミライナカ」計画2030

加西市は、デジタルの利便性を市民が実感でき、誰もが安全で豊かな生活を送れる持続可能なまちの実現を目指し、多くの企業・団体、行政、大学等と市民との協創によって、時代をリードする情報関連の事業やサービス提供を目指す実証事業等に積極的に取り組み、未来を拓く新しい生活様式と働き方の具体化を目指します。

デジタル技術を活用した、人が中心の持続可能な協創のまち 「サスティナブル・スマートシティ」の実現

地域の課題解決

便利で健康に住み続けられるまち

課題解決によってWell-beingと呼ばれる生活の豊かさの実感に結び付かせることを中心にした事業の構築を目指します。

地域の活性化

人・モノ・情報の交流が活発な活力のあるまち

今後、生産年齢人口の減少が避けられない状況の中で、活力ある地域経済の持続的発展に向けた取組の柱となる事業の構築を目指します。

実現に向けた取組テーマ(10分野)

行政DX

新しい地域経済の循環

健幸づくり

地域貢献活動の活発化

加西ファンづくり

子育て支援

地産地消エネルギー

次世代型人材の育成

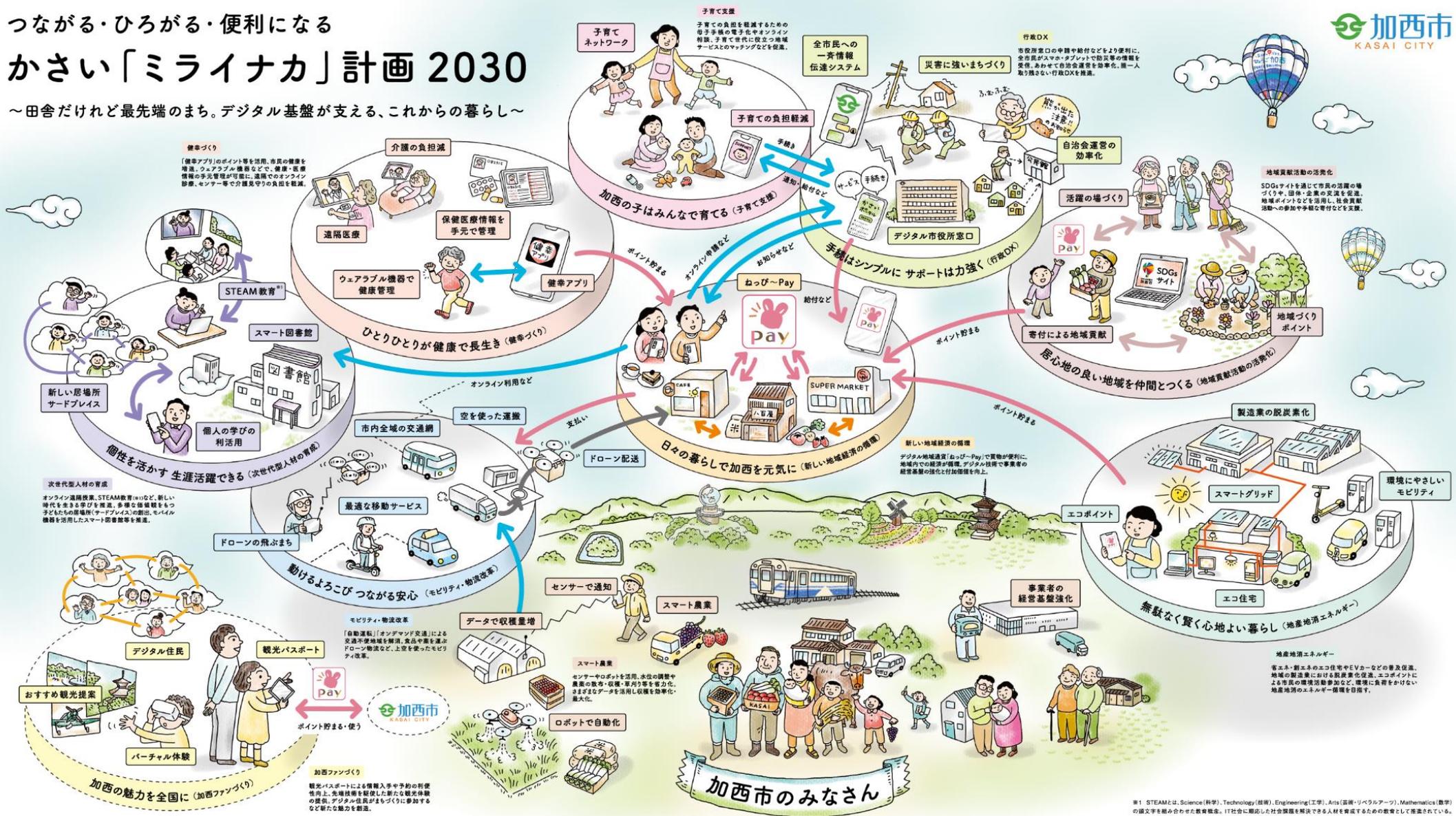
モビリティ・物流改革

スマート農業

目指す未来像のイメージ



つながる・ひろがる・便利になる
 加さい「ミライナカ」計画 2030
 ~田舎だけれど最先端のまち。デジタル基盤が支える、これからの暮らし~



※1 STEAMとは、Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Arts(芸術・文化)、Mathematics(数学)の頭文字を組み合わせた教育概念。IT社会に開いた社会課題を解決する人材を育成するための教育として推進されている。

目指す未来像の10分野(1~5)

項番	テーマ	キャッチコピー	分野	施策(実現することの概要)	内容(どういったことが実現できるか)
1	行政DX	手続はシンプルにサポートは力強く	行政	デジタル市役所窓口 市民への一斉情報伝達 災害に強いまちづくり 自治会運営の効率化	マイナンバーカードを使い、手続きや給付などをスマホで簡単に 全ての市民にアプリ等で防災情報を一斉に伝達 センサーでの状況把握やデータ活用で災害に強いまちづくり 広報や回覧板、自治会内の連絡網のデジタル化で効率的な自治会運営
2	新しい地域経済の循環	日々の暮らしで加西を元気に	産業	ねっぴ〜Pay 事業者の経営基盤強化	地域通貨で買い物が便利に。域内流通で経済循環を促進 デジタル技術で競争力と付加価値を高め、イノベーションを創出
3	健幸づくり	ひとりひとりが健康で長生き	健康・長寿	健幸アプリ ウェアラブル機器で健康管理 保健医療情報を手元で管理 介護の負担軽減 遠隔医療	健康づくりへの意識醸成をポイントを活用して促進 ウェアラブル機器などを使った健康管理 PHRなどの自身の健康・医療情報を手元で管理 介護ロボットやセンサーなどで見守りや介護の負担を軽減 自宅にいながらオンラインで診察を受診
4	地域貢献活動の活発化	居心地の良い地域と仲間をつくる	まちづくり	SDGsサイト 地域づくりポイント 活躍の場づくり 寄付による地域貢献	企業・団体等によるSDGs推進に向けた取組の「見える化」と連携促進 ポイント付与による地域貢献活動への参加促進 登録サイトなどを通じた楽しく活躍できる場づくり 地域通貨を使った手軽な寄付で地域活動を支援
5	加西ファンづくり	加西の魅力を全国に	観光	観光パスポート おすすめ観光提案 バーチャル体験 デジタル住民	観光情報やクーポン獲得、予約などが簡単にできる AIが好みや訪れた場所からおすすめの観光ルートを提案 VR、AR、MR等を使い仮想と現実が組み合わさった新しい観光体験 NFTなどを使いデジタル住民がまちづくりに参加

目指す未来像の10分野(6~10)

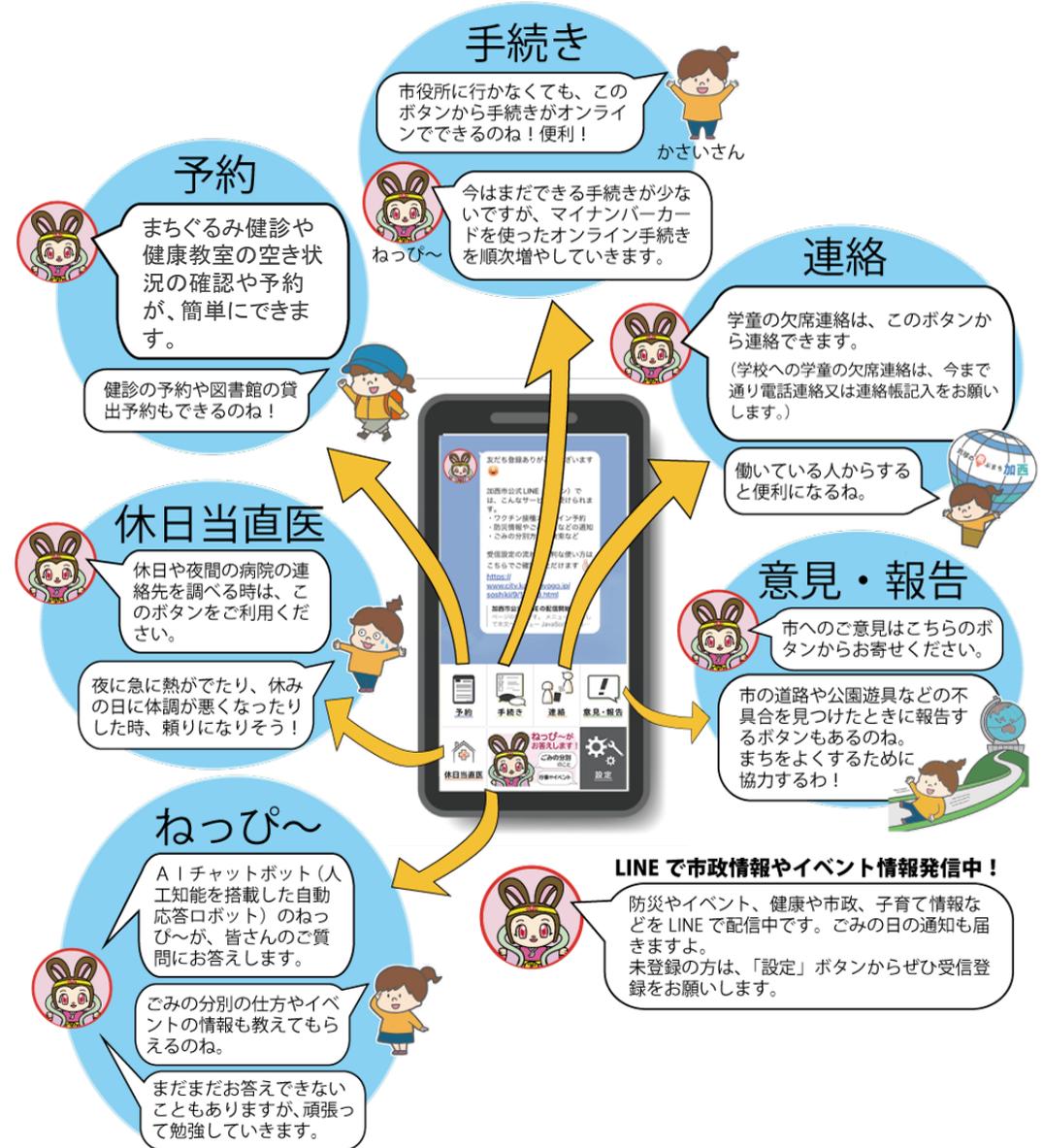
項番	テーマ	キャッチコピー	分野	施策(実現することの概要)	内容(どういったことが実現できるか)
6	子育て支援	加西の子は みんなで育てる	子育て	子育ての負担軽減	電子母子手帳で接種の通知や記録、オンライン相談
				子育てネットワーク	子育て世代に役立つ地域サービスとのマッチング
7	地産地消 エネルギー	無駄なく賢く 心地よい暮らし	環境	エコ住宅	創省蓄エネによるエネルギー効率の高いエコ住宅での快適な暮らし
				環境にやさしいモビリティ	EV充電スタンドの充実でエコカーの普及浸透
				スマートグリッド	次世代エネルギーシステムで再エネの効率利用と災害対策
				エコポイント	市民が積極的に参加するエコな取組の広がり
8	次世代型 人材育成	個性を生かす 生涯活躍できる	教育	製造業の脱炭素化	「GX施策」により地域企業のCO2排出量の可視化、脱炭素化促進
				加西STEAM	オンライン遠隔授業とSTEAM Labo.で新しい時代を生きていく学びを
				新しい居場所サードプレイス	メタバースなどに多様な価値観を持つ今の子ども達の居場所づくり
				個人の「学び」の利活用	人材育成に向け、市民に「学び」の記録を
9	モビリティ・物流 改革	動けるよるこ び。つながる 安心	交通・ 物流	スマート図書館	スマホやタブレットで図書館利用をもっと便利に
				市内全域の交通網	「自動運転」や「オンデマンド交通」等により交通不便地域を解消
				最適な移動サービス	公共交通の案内・予約・支払いの一体サービス
				空を使った運搬	ドローンを組み合わせた新物流網で、食品や薬などを運搬
10	スマート 農業	スマート農業	農業	ドローンの飛ぶまち	ドローンを学べて活用できるまち
				ロボットで自動化	ドローンやロボットで自動散布・作付・収穫、自動草刈り
				センサーで通知	センサーで自動水位調整や通知
				データで収穫量増	データ活用による施肥と収穫予測



- 2021(R3)年4月から運用開始
- 市民約21,000人が利用
(人口約42,000人。利用率約50%)
- 市民の情報受信、申請ツールとしてデジタル市役所窓口を提供

<新規サービスと今後の取組>

- 2024(R6)年4月から、マイナンバーカードの読取とポイント付与に対応。ライフナビ2000P付与を実施
- 7月からオンライン支払に対応。住民票や税証明の申請が可能に





- 2024(R6)年4月運用開始
- 利用者数約11,000人(LINE含む)

＼くらしをもっと、安心・便利に！／

1 防災・防犯の情報が届く

防災・防犯の情報が、スマートフォンアプリ「かさいライフナビ」に届きます。



再生ボタンから音声を聞くこともできます



大地震です！

大雨警報が発令

火災が発生

避難所が開設

2 市広報などが届く

広報かさいをはじめ、紙でお届けしている各種広報誌やチラシなどのデジタル版が届きます。



「メニュー」「市広報」などを押す。市広報などの一覧が表示される。

「広報かさい」が「声」で聞けます



「記事を読み上げる」を押す。

3 自治会内の放送・連絡が届く

かさいライフナビは、区長様から町(自治会)内の住民の皆様だけに放送・連絡ができる仕組みを備えています。

緊急の連絡です。

区長様



加西市公式LINEにも、同じ情報が届きます。

1 防災・防犯情報



2 市広報など



3 自治会からの放送





加西市内の
店舗のみで
使える地域通貨

- 2022(R4)年9月から運用開始
- 利用者約15,500人(うち市外約1,300人)
- 年間利用額 2023(R5)年度 472,685千円
- 市内約285店舗で利用可能

<手数料とポイント付与>

- 店舗手数料 決済額の1.8% (民間サービス 3.0%程度)
- 利用者ポイント付与 1.0% (民間サービス 0.5%程度)
- 差引 0.8%はシステム保守、販促費に使用

<新規サービスと今後の取組>

- 2024(R6)年5月に、チャージ機の設置や能登半島地震への寄付機能を実装
- 今後も市民に愛される地域通貨としてより良いサービスを目指す

現金自動
チャージ機





- 2019(R1)年から運用開始
- 利用者約5,200人



歩くことで
ポイントが
貯まるアプリ

<目的と機能>

- 「歩くまちづくり推進計画」「歩くまちづくり条例」を制定
- 自然と歩くことを習慣づけることで健康を増進
- 歩数ランキングがあり、歩くモチベーションに
- イベント参加や歩数に応じてポイントを付与
- ポイントは年度末にねっぴ～Payに交換可能

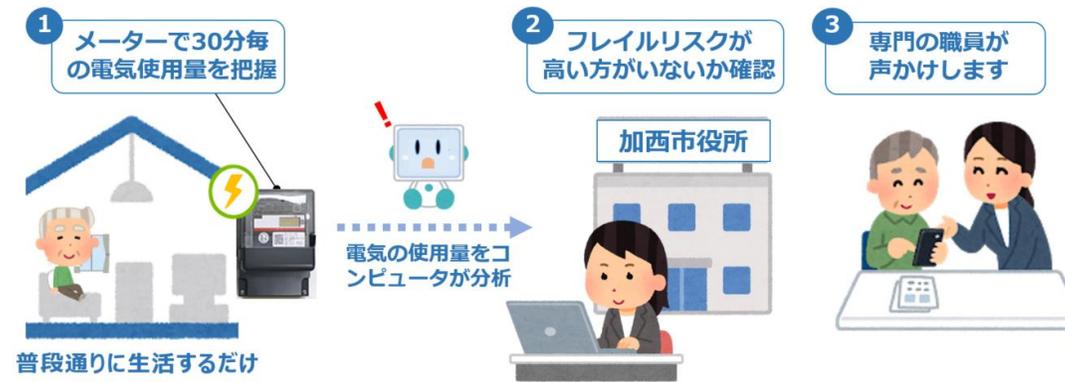
<新規サービスと今後の展望>

- 2024(R6)年5月に、データ連携基盤のマイナカード本人認証機能に対応
- 健康データを分析し、本人へのフィードバックを目指す

フレイル予防事業「eフレイルナビ」

身体的機能や認知機能の低下が見られる「フレイル」状態を、電力メーターの使用状況で早期に発見し、訪問指導を行う。

- 2024(R6)年9月から分析開始
利用者122人(対象者の約28%)



ひとり暮らし高齢者等見守りサービス「まもりこ」

- ひとり暮らし高齢者宅の冷蔵庫に端末を貼り付け、その開閉を感知
- 離れて暮らす家族にスマートフォン等を通じて通知するサービス
- 2024(R6)年7月から運用開始
利用者約40人





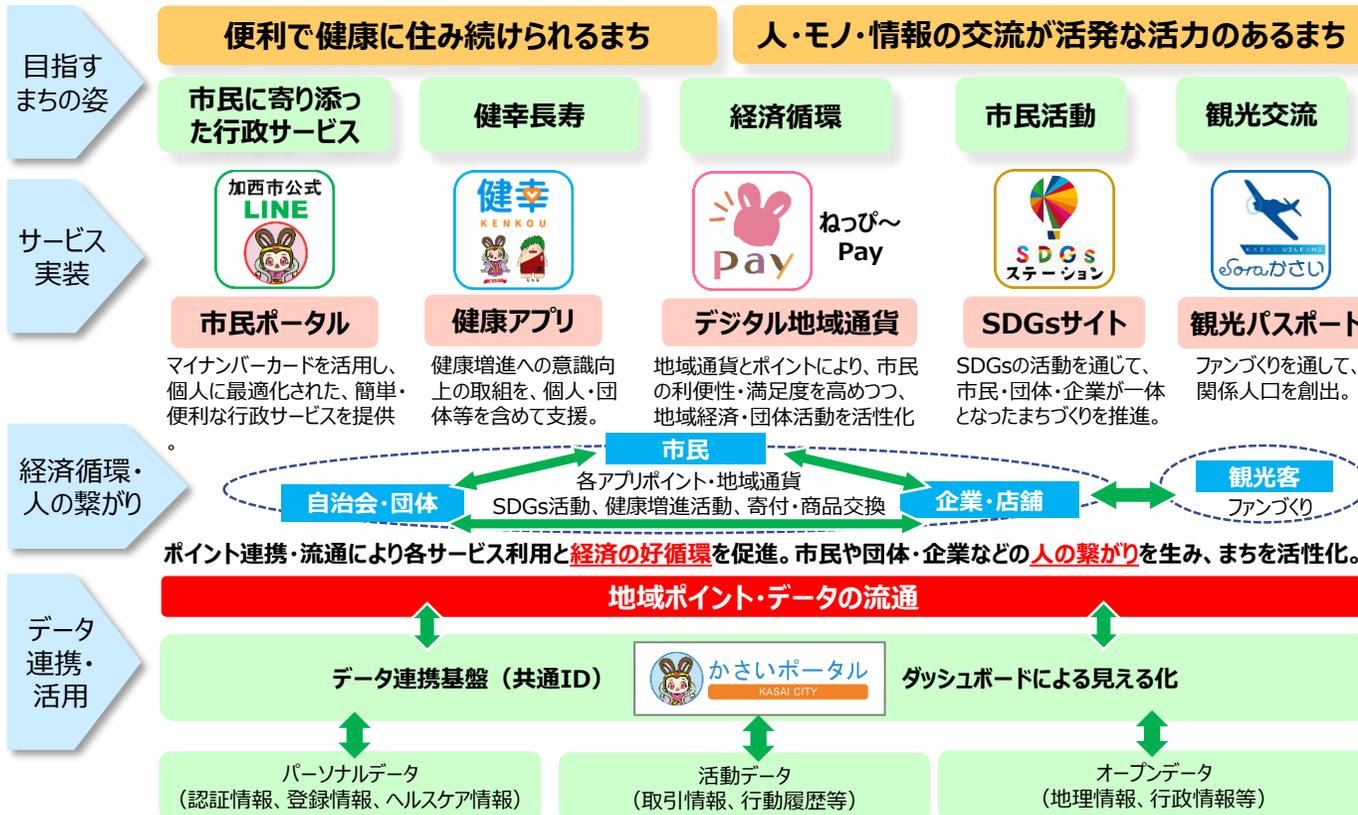
- 2023(R5)年10月から運用開始
- 初年度は、28の企業や団体がSDGsパートナーとして登録

<目的と機能>

- SDGsの目標に向け、よりよいまちを次世代に繋いでいく活動を推進
- 登録パートナーの取組を「見える化」し、活動への参加を促進
- 活動によっては、参加者へのポイント付与も実施

市民活動をつなげ、促進するポータルサイト

- スマートシティ推進のため、**データ連携基盤**を活用し、複数のサービス実装により地域住民等の Well-Beingの向上を図る取組
- 加西市は、「**地域通貨を活用したサステナブル・スマートシティ推進事業**」として国の採択を受け、データ連携基盤により5つのサービスを連携させた仕組みをR5年度に構築



＜データ連携基盤での実装機能＞

- マイナンバーカードによる **本人認証**と、他アプリへの **認証情報の連携機能**

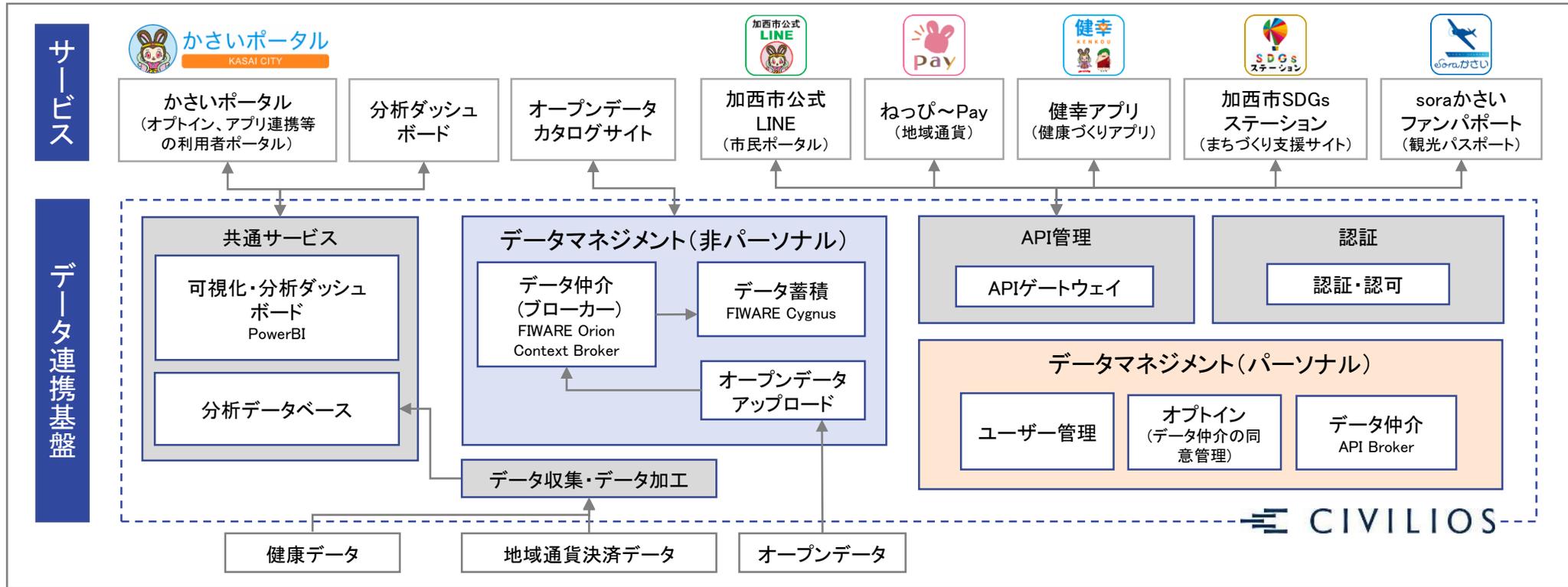


- 地域通貨の **ポイント連携機能**



これらの基本機能に加え、多様なアプリやサービスを今後拡張していく。

加西市データ連携基盤の初期構築時のシステム構成図



行政や企業等の保有するデータを加工・連携させ活用することでより便利な社会を実現

オープンデータ(非パーソナル)の将来の活用例

- 分析ダッシュボードによるまちの見える化
- 匿名加工されたオープンなデータの活用

パーソナルデータの将来の活用例

- 購買、健康など個人の行動を元に分析された生活改善情報の提供
- 診療や交通の利用予約と支払の一体的なサービス提供
- 本人承諾(オプトイン)のもとでの企業ビジネスとしてのデータ分析・活用

デジタル化への社会的な要請が高まる中、今後より一層 AI、IoT、ロボット、5G 等の最新技術の企業経営への浸透、新たなビジネスモデルの登場、グローバル化の進展による企業間競争の激化等、事業者を取り巻く環境が大きく変化していくことが見込まれる。

第2次加西市産業振興計画

基本目標 I 次代を拓くイノベーション産業の育成

(1) デジタル技術の活用推進

■ 具体的施策の展開

No.	具体的施策	取組内容	備考
①	スマートファクトリーの推進	市内事業者の抜本的な生産性改善のためのインフラとして、デジタル化・ICT 導入を進め、事業者のスマートファクトリー化を推進します。	新規
②	電子商取引 (EC) の拡大促進	新たな市場開拓の取組支援として電子的な商取引 (EC) の拡大に対して支援します。	継続
③	オープンイノベーションの取組促進	事業者や業種の枠を越えた連携により、新たな価値創出や課題解決を図るオープンイノベーションの取組を促進するとともに、デジタル技術の活用による新技術・新製品の活用を促進します。	新規
④	テレワークの導入支援	テレワークの導入を支援し、時間や場所にとらわれない多様な働き方を推進します。	新規
⑤	デジタル人材の育成	デジタル人材の育成を支援し、本市産業の持続的な発展を促進します。	新規
⑥	熟練技術の承継	熟練者が培ってきた優れた技術・技能を次代の後継者に円滑に活用できるよう、デジタル技術を活用したデータ化等を図り、承継を推進します。	新規

< 必要な対策 >

- デジタル化への取組による高付加価値化や生産性の向上
- デジタル人材を育成し持続的な発展を促進
- ものづくりの熟練技術の継承 など

※備考欄について：「新規」は、第 2 次産業振興計画において新たに位置づけた施策（市で既に実施済みの施策も含む）、「継続」は、前計画から引き続き実施する施策。「拡充」は、前計画からさらなる充実を図り取り組んでいく施策を指しています。以降各項目の施策も同様です。

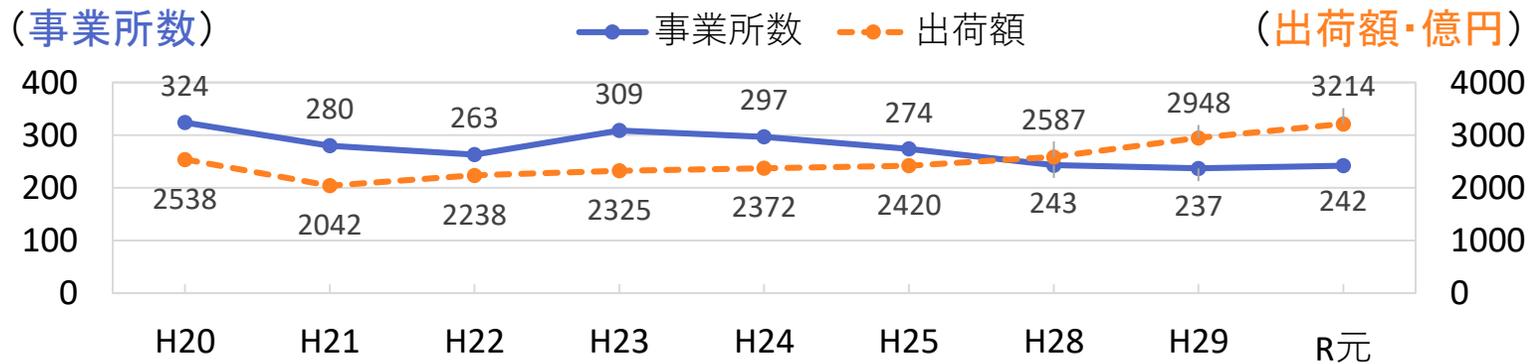
(参考)加西市の産業 製造業集積への歴史

明治～戦後
昭和22年
昭和30年代
平成～
平成18年
現在

- 農村の工業的副業として織物産業(播州織)が広く定着 (S24 月産60万平方ヤード)
- 紡績工場跡の松下航空工業北条兵器製造所を松下電工から引継ぎ三洋電機が創業
- 外需縮小により織物工場、賃織農家が近代工業へ移行
(白物家電の部品を製造する三洋電機の部品製造下請けへの転換が急増)
- 下請け工場が金属加工、機械製造などに販路を広げ自主独立の企業に育ち
「ものづくりのまち加西」を確立
- 三洋電機北条工場が閉鎖(現イオンモール加西北条)。リーマンショックと重なり一時的に雇用減少、地域経済が低迷したが、三洋電機を離れた技術者OBの地元企業再就職により高度な技術力を地域企業に還元、「部品製造のまち加西」が復活
- 経済系テレビ番組に出演する世界レベルの“大きな中小企業”も複数現れる



工業統計調査 製造業事業所数及び製造品出荷額の推移



- 製造品出荷額 3,214億円 (R元年工業統計調査 県下11位)
- 第二次産業就業人口比率 42.5% (R2国調 県下1位、全国21位)
- 流入通勤者数 11,346人 (R2国調 昼夜間人口比率 県下3位)
- 一人当たり法人市民税額 15.1千円 (R4年度 県下1位)

全体体制図

加西市

加西市DX推進委員会

委員長(副市長)・幹部職員

提言・承認

事務局:政策部情報課

事務局補助:電通西日本

相談・助言

中核的経営人材

CIO補佐官 大賀暁

検討グループ(重点10テーマ)

- ・行政DX(行政)
- ・新しい地域経済の循環(産業)
- ・健幸づくり(健康・長寿)
- ・地域貢献活動の活発化(まちづくり)
- ・加西ファンづくり(観光)
- ・子育て支援(子育て)
- ・地産地消エネルギー(環境)
- ・次世代型人材の育成(教育)
- ・モビリティ・物流改革(交通・物流)
- ・スマート農業(農業)

スマートシティ推進会議

委員

- ・加西商工会議所
- ・市内企業(製造、ICT)
- ・金融、商業、農業、福祉、教育の各分野団体、起業家
- ・兵庫県デジタル戦略課
- ・学識経験者

活動内容

- ・現状把握
- ・課題抽出と取組方向
- ・推進組織のあり方
- ・提案のまとめ

ワーキンググループ(WG)

① 調査研究・実証事業

地域課題解決、生活の利便性向上を目指した、実証事業や企業マッチング、計画の立案など、デジタルサービスの調査研究・実証に関する事業。

② 普及啓発・交流事業

イベント開催や地域企業のDX支援、情報発信等、デジタル技術の活用推進を図る普及啓発・交流に関する事業。

③ 人材育成事業

地域の企業・団体等のデジタル化に貢献するDX人材や次世代人材育成に関する事業。

④ システム管理運営事業

データ連携基盤システムの運営及び、データ利活用促進のための機能追加や共同利用の拡大など、システムの管理運営に関する事業。

「加西市スマートシティ推進会議」を立ち上げ、続いて「スマートシティ推進協議会（仮称）」を設立し、持続可能な自立した組織を目指します。

<ロードマップ>

2024～2025年

スマートシティ推進会議
（推進協議会の設立準備）

協議会設立に向けた
準備フェーズ

- 計画の展開に求められる方策の検討（調査研究・実証、発信・啓発、交流、人材育成など）
- データ連携基盤の利用促進・活用拡大の検討
- 推進に必要な事業や体制の検討

2026年

スマートシティ推進協議会
（設立）

事業を具体化する為の
実証フェーズ

- 地域課題解決、生活利便性向上を目指す情報サービスの調査研究・実証の具体化
- 普及啓発、交流事業の実施
- 地域企業、団体などのデジタル人材の育成
- データ連携基盤の管理運営と共同利用の模索

2027年

スマートシティ推進協議会
（事業拡大）

具体的な施策の
拡大フェーズ

- 調査研究や実証事業の**拡大と実装**
- 普及啓発と交流事業の**活発化**
- デジタル人材の**育成強化**
- データ連携基盤の**拡充と共同利用の実現**
- デジタルサービス拡大の為の企画運営

2028年～

スマートシティ推進協議会
（協議会自走）

サステナブル・スマートシティ
実現に向けての
安定成長フェーズ

- **協議会の収支安定化に伴う継続的な事業拡大**
- 調査研究・実証事業の拡大と実装の**定着**
- 普及啓発、交流事業の拡大と**定着**
- デジタル人材の育成と**活躍の場の提供**
- データ連携基盤の拡充と**更なる連携による拡大**

